

温泉の泉質

単純温泉	無色透明で湯疲れしにくく、名湯といわれる温泉に多く見られます。PH8.5以上のものはアルカリ性単純温泉と呼び、肌触りが柔らかく、すべすべした感じとなります。
二酸化炭素泉	炭酸ガスの小さな気泡が肌につき、泡の湯と呼ばれています。血管を拡張、血圧を下げる効果があります。
炭酸水素塩泉	<u>重曹泉（ナトリウム炭酸水素塩泉）</u> 無色透明で肌をなめらかにする効果があり美肌の湯とも呼ばれ、お湯そのものの肌触りも良く清涼感に満ちた湯上り感をもたらしてくれます。 <u>重炭酸土類泉（カルシウム又はマグネシウム炭酸水素塩泉）</u> 鎮静作用があり、炎症を抑える作用があります。
塩化物泉	入浴後、肌に塩分がついて発汗を抑えるので保温効果が高く、よくあたたまる温泉です。
硫酸塩泉	ぼう硝泉（ナトリウム硫酸塩泉）、石膏泉（カルシウム硫酸塩泉）、正苦味泉（マグネシウム硫酸塩泉）とも呼ばれています（利用源泉により選択する）。保温効果が大きく、降圧作用があります。
含鉄泉	湧出したときは無色透明ですが、空気に触れると酸化して茶褐色に変色します。保温効果抜群で冷めにくい温泉です。
硫黄泉	硫化水素ガス特有の卵の腐った匂いがします。黄白色の沈殿物は湯の花と呼ばれ、いかにも温泉らしい温泉です。血管を拡張する作用があります。
酸性泉	一般に高温で、ほとんど無色か微黄褐色で、口に含むと酸味があります。殺菌力が大変強く、水虫などの皮膚病に効果があります。